

創生會全九州代表者第一回大會記念講演會

一、日時 昭和十年四月三日 自午後一時十五分至同四時四十分

二、會場 福岡市四中州 縣公會堂

三、參加者 四〇〇名

四、講演會内容

- 1、開會の辭 福岡縣創生會長 倉富 角次郎
- 2、演 演 福岡縣創生會 中 村 信

福岡縣隊區司令部付陸軍中佐 中 村 信

ドイツの爆彈宣言は日本が國際的ワシントン條約を排棄した處の正義に刺戟されたものである。日清、日露の戦も正義に立脚して進んだが故に常に光明の道が開けて來た。最近三億の民を有する支那も目覺めて來た。日本は東亞の盟主となり大プロックを造り上げねばならぬ。之は武力では駄目だ、建

國の大精神に立つて進まねばならぬ。協調外交でなく自主的
外交を必要とする、それには陛下を中心とし國內結束してこ
そなし侍るのた、信念を持ち世界を指導する精神、即ち創生
會の主義を以て進め

創生會顧問 (一九日主筆) 清水 芳太郎

皇道は内容が複雑で見方により違つて來る、私は古學記に依
る立場から見たい、御劍に示されてある皇道を考へて見ると
御劍は八岐の大蛇の尾に含まれてあつたと傳へられてあるが
八岐の八は無限を意味するもので、大蛇はうねうねとして總
ての方面に向ふと言ふ事である。種々の方面に向つてあるが
尾が一つで即ち統一されてある事を示すものである。劍は鋭
く事所謂分業と言ふ事、この一つの御劍で統一されたもの
を神器として御祠りするのである。大資本家の少數が價格を